

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	A-190	21-040
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之		
題名 (原題/訳)		
Factors associated with healthcare utilization and mortality in alcohol use disorder hospitalization アルコール使用障害の入院における医療利用と死亡率に影響する因子		
執筆者		
Singh JA.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend.2021 May 1;222:108653. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2021.108653.		
キーワード		PMID
アルコール使用障害、医療利用、死亡率、医療費		33714717
要 旨		
目的： アルコール使用障害による入院の医療利用（総医療費、転帰先、在院日数）、院内死亡率の予測因子を調査すること。		
方法： 1998年～2016年のアメリカ合衆国における全国入院患者サンプル（NIS）を用いて、アルコール使用障害（AUD）による入院のアウトカムとして医療利用（総医療費、転帰先、在院日数）および院内死亡率の予測因子を調査した。患者特性（年齢、性別、人種、世帯収入）、併存疾患（チャールソン併存疾患指数）、保険者（Medicare、Medicaid、個人保険、自費、他）、病院特性（立地、教育病院、病院サイズ、地域）とアウトカムの関係をロジスティック回帰分析にて検討した。		
結果： 1998年～2016年の間に5,590,952名のAUD入院があり、院内死亡は106,419名（1.9%）であった。平均年齢は48歳、男性73%、白人59%、チャールソン併存疾患指数ゼロは57%であった。AUD入院（医療利用および院内死亡率）に対する多変量解析では、高齢、女性、チャールソン併存疾患指数高値、田舎の立地、中規模～大規模病院は医療利用および院内死亡率が有意に高かった。同様に、南部や西部の立地、白人、高収入（四分位）は高い医療利用と関係していた。個人保険者と比較し、MedicareおよびMedicaid利用者は高い医療利用と関係していたが、院内死亡率は低かった。		
結論： AUD入院のアウトカム（医療利用および院内死亡率）に影響する独立した因子として、修正可能および不可能なものが同定された。本結果はAUD入院のアウトカム改善のための予後予測、資源の再配分、介入方策の進展に有用と思われる。		